23

光

第二十三輯

大正十二年五月

◇二つの便りについて……西田天香
◇人間の謝罪と人類の轉機……村田芳雄
◇冬から春へ……鈴木五郎
◇マッチ工場……迎久美
◇思ひついたまゝ……海野倫悟
◇寂しい春……かなめ

同人　懺悔報恩の奉仕者
祈願　不二の光明によれる生活
費用　供養されたる浄財

◇光明へ……八田勝三
◇茶話のあと……矢名氏投
◇一燈園日記……藤田生
◇返照録……遠近兄姉
◇下毛野行脚……松下吉衛
◇燈影雑記……まつした

一燈園・宣光社

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

謹告

一 本誌の殘本第三號以下全部、多少づゝありますから御希望の方はどうぞ御申越し下さい。

一 讀者諸兄姉にして御住所變更の際は是非御通知願ひます。

一 集金郵便は郵便局の極遠い處の方の外は、他に餘儀ない事情のない限り、成るべくお避け願ひ度うございます。

一 御送金は成る可く振替をお使ひ下さい。又普通の爲替の場合は書留にして頂きたうございます。

一 御前納くださつた誌代が切れた時には、その旨申上げますが、猶御送金のない場合は甚だ勝手ですが、集金郵便を差し上げることにいたしますから、豫め御許しを乞うておきます。

一 本誌は、現在、四千部刷らせてもらつてゐます。基礎を堅める爲に、許されるなら、あと千名の讀者諸兄姉を惠まれたいのです。もし本誌のやうなものでも幾分か道のお役に立つこと思召しの方はどうぞ御知合ひに本誌を御紹介くださるやうお願ひ申上げます。

一 全國各地に於ける『光の友』の機關誌として、本誌をお使ひ願はうこと存じますのでどうぞ御勤靜を

東京市外上戸塚五八〇玄光社(振替東京五四一七八番)內松下吉衛宛に御通知煩はしたう御座います。

京都市柳馬場三條下ル

宣光社

振替大阪五九八三九

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

二つの『便り』について

西田天香

園の生活が、いろ〳〵の方に試みられるやうになつてから、その反應ともいふべきものが隨分あります。勿論よいことばかりではありますまい、その當然落付くべき處までゆく途中に於きましては、よしんば善いことでも、樣々のそれ自身の不行屆と、周圍の誤解とがありまして、惡いやうに見えることが澤山あるものです。況んや、園の生活と自身におもひつゝそれが全く園生活と相容れない體度であるときには、何の光もあらわれないのみか、人と社會をきづゝけます。

こうした事にも、一面に園も責任を回避してはならぬのでありますが、その人自身にも、よく〳〵氣を付けてもらひたく、また他の方にも徒らに園の生活を氣取つてゐてもその內容に就て穴勝盲從的に信賴してもらふてはならぬと思ひます。

近頃いたゞく手紙のうちに、武智某といふ人のことに就ての投書が大分參ります、此方は處々方々へ、一燈園の宣傳めいた體度を以てまわつてゐられるさうであります。私の手元への投書は、一種のものは、武智氏は一燈園から派遣してゐるのであるかどうかといふのであり、また一種の分はあの樣な體度では想像した一燈園同人と全く樣子がちがつて、甚不愉快であるといふてくるのであります。

私はこうして數通の手紙を手にしまして、いたく心をいためます、たゞ此武智といふ方だかりでなく、こふした風にして諸方をあるく人がこれから段々ふえもし、又こうした風の人をも園の生活者として不便な處では重寶がるやうな事にもなるかも知れぬとおもふからであります。

勿論私は他を審くわけにはゆかぬ、こうして新人方のうちに、私などよりは徹底してゐる方もないとはいへぬ、又どん

な手數方便で一時の行程を不純にする事がないとはいへませぬから。然しながら、よしあしともに既にその方が一燈園生活と銘打ちますならば、その體度によつては園から相當の事を御返事をしたり、また園の體度をはつきりしたりすることは最も大切な義務であります。審くのでなくて一燈園はかくいたして居りますと申すのでありますから、武智といふ方なり又他に之れに似たやうな體度で、諸方をおまわりになる方も、よく了解してもらい此文を互ひの修養としてよんでもらへばありがたいことです。

一體一燈園は原則として宣傳的な體度を採りませぬ。『私は一燈園生活者であります』などゝ申して他の家や學校などへまゐることは根本に於て大間違であります。それは十字街頭の生活であります以上、處々に一人で又は二三人で遊歩する途中自然他の方に行乞をすることもありましよふけれども是とても極度の困つた時に、たとへばあまりに空腹を感じたときの一椀とか、往きつかれたときに然るべき小屋すら惠まれざるときの一宿とかで、是すら心中にはこの身も是私しのものにあらず預りものであるとの禱りを以てゞありますから、かなりに引きしまつた狀態でなければなりませぬ、一度おたのみして斷られるのを二度くりかへしもしますまひし、又既に宿や食を乞ふものですもの、持ち物などが餘分にある筈もありませぬ、所謂一笠一枚の姿である筈です。かゝる狀態は宣傳といふ意味でなくて、全く自分の修行であります、懺悔の態度であります。

或は中には相當な持物をもつて、すぐに玄關に立ち『私は一燈園の同人です』などゝいひ、他の人々や會社などの名刺を出してその經路をかたり、便所の掃除をし何かお話しをさせてもらふといふ樣な體度をする人もあるそうです。それは全く私の心持ではないのみならず、一燈園は今分では決してさうした體度はとらせぬ。

勿論直接一燈園が是非との招待を受入れましてまいる場合は、たとへば中桐さん松下さん淸水さん海野さんなどが、たのまれて講演をされたり、また私が講壇に立ちますことはありますが、これは全くたのまれ事で已むを得ぬのであります。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

已むを得ぬのと押賣のやうになるのとは、よしんば形は同じ講演と托鉢であつてもその內容に於て非常なちがひであるのは無論です。

『宣傳せぬといひなさつても、一燈園生活は段々に傳染しますね』とはいはれます、傳染はしますが宣傳的にはまだなつて居りませぬ。『私は一燈園の同人であります』などゝ申すのは、それ自身もはや今の私なり一燈園なりの氣持とは非常な距離のあるものです、隨つてその內容から出ます體度や言說は決して園の生活を髣髴することは出來ぬものと思ひます。

私の願ひます十字街頭の遊步ならば、まづ第一玄關にたてませぬ、學校にせよ寺にせよ個人の家にせよ、私は何々ですなどゝ玄關にたつことは出來ませぬ。

遊步するならば心のうちに合掌して只步みたい、契緣の爲めなら路上よりその家をむいて拜みたい、そこには何の要求もなくて只合掌念佛したい。餓ゆれば正直に背戶にたつて靜かに一食を乞ふて見たい、暮れば一夜を小屋にでもとたのんで見たい。勿論一燈園生活とか同人とは申すまい、是は名をかりて德をぬすむことになる、殊勝な體度は自から人の供養を受ける、受けなければそのまゝ去る、受けて名をきかれたら、私なら西田天香と申したい、それだけでよい、一燈園生活のやうですがと尋ねられたら、一寸よせてもらふたこともあるとか、また前に少し居りましてとかいふはよいが、一燈園生活の人なりとて供養されるのは、する人に罪なくて受くるものには罪を感じます、なぜならばそれは已れの修行の人格に對して受けたのでなくて他の看板によつていたゞくのでありますから。

この位でありますから勿論講演そうばでない、講演をとたのまれて往くのでさへ、講演をあぶないとおもふて托鉢する方を中心にするものを、已れの心に講演を望むやうでは、どこに一燈園生活のおもかげがあらわれましよふ。

口でどれほど巧妙にいひこなしましても、生活がなくては只の與行にすぎぬことになります。只神妙に隨處々々で托鉢してゐれば、それは園生活の雄辯なものであります、假令往きつかれて宿を乞ふも又餓ゑて食を乞ふも、じきにそこに感

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

謝の奉仕があらはれます、決してその家に迷惑やいやな思をさせるはづはないとおもひます。『懺悔の生活』の福田の篇中の、東寺の境内で私のひろはせてもらふた、老人の體度や、また轉機の篇にかゝせてもらふた私の行乞のしはじめなどを見て下さればよくわかります。是は私しのみの體度でなくて、何人も一度は必らず通過すべきで、又無緣の處へ始めて自から遊歩したときの體度でなければならぬとおもひます。

『かゝる體度でくる人があるが是は一燈園の同人なりや』などゝ尋ね越される方のやりかたは、よしんばその內に同じやうな形があるにもせよ、最重大なる點に於て缺けてあることを思はされます。それは既に人に「いやなかんじ」を起させてゐますもの。「いやなかんじ」をもたせまいとの生活であらねばならぬのです。

如何なる體度の方をも、惡いと私が申すのでない、一燈園生活はそふした體度をとりませぬといふ事丈を明かに申しておくのです、若し眞に生活を知つて見やうと思ふて下さる方は、直ちに京都鹿ヶ谷一燈園當番又は私へ宛てゝ御照會下されば、くりあわせて誰れかにほんとの人を往つてもらいます。隨つて次から次へと一寸便所の掃除位をして講演してまわる樣な體度に就ては一燈園は責任を負ふわけには參らぬ事になるのです。

今一つの便りは丁度右と反對なのです、それはこうした風の手紙であります。

『一人の修行者の樣な人が見へまして、色々と仕事をかくれた處でしてゐます、お禮を申したことが緣になつて、今では內の人のやうに皆が思ふて居ます、別に何にもいひなさらぬ、やつとしてから一燈園にいた方だといふことがわかりました、けれども謙遜な體度で、私はまだ一燈園の生活の眞髓は分りませぬといはれます、每日野良へ出て働いてあまりに無慾で沈默でいられますので、いつのまにやら自分の家庭は樣子が段々にかわつてまゐりました、一言御禮を申たいとおもふてお手紙を書きました、』

といふ調子であります。是に類する手紙も數々いたゞきます。かゝる手紙をいたゞく度に、私はまづ自分を恥かしくお

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

もひます。不德な自分は決してこんな禮狀をもらふ資格はない。これは此十字街頭の托鉢する人のおひかりを得られた賜ものであつて、自分の力でないのであります。

思ふに手紙をいたゞいた人のみならず、かうした人達も今は澤山あちらこちらに遊歩したりまた一處に止まつて托鉢したり、家庭へかへつて奉仕をしていられることゝ思ひます。家庭から『うちの息子はおかげでよくだまつてはたらくやうになりました』とか『うちの娘はまつたく變つてやさしくなりました』といふ樣な禮狀は澤山いたゞいて居ます、これらもみな、わたしの力でなうて、おひかりとその人との德であるは無論であります。

只一ヶ所でやさしく托鉢する位の事で、どうして今の世の中にゆきわたるかといふ氣持もないではないけれども、右の樣な體度は中々に雄辯に廣く力あるはたらきをしてゐるのであります。根のない蔓草がいかに橫にひろがりましてもすぐかれます、一時の雨や濕氣で靑い色をしたとても、やがて赤葉になるものです。之れに反して根が深くはいつてあれば大丈夫です、少し位はおそくても枯れる氣色がありませぬ。

私はあこの種類の消息をよろこびます。どうかしてまづ自分を完成したい、自分の完成とは利己を意味するのでない、利他よりする體度に於て自分をまづ完成したい。そふしてそれを一方に見て他の一方に宣傳する機能が必要であるときには、宣光社の名によつてはたらきたい、一燈園生活はよく禱り、宣光社はよく傳へたい。

何事もみな自分なり園の不行屆であります、みなさんに申譯がありませぬが、だん〳〵に事が多くなるにつけ、また一燈園が世間の問題になるにつけ種々の狀態が現れます。心して互に注意をしたいものです。どうかお祈り添へを願ます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

人間の謝罪と人類の轉期

——中桐確太郎師に——

村田芳雄

一

——前略—— 貴所様への第一回の書信に厚釜しくも私は生活上の理由から、私の原稿をお世話して戴く様に御依頼申し上げ、貴所様もそれに對して温い御返事を下されたので御座いますが、今は全くそれを悔いて居ります。

報酬を得るに相應しい様なものは勿論書けやう筈でありません。それに更に恐しい事は、其の理由が如何に立派であり尤もらしいものであつたにしても、當時の私は明かに惡魔に魅入られてゐたので御座います。書いた私の境遇には何んのいつはりは無くとも、私は私の内を流れる唯一の眞實在を心配するより先きに、世俗的なまぼろしの命を思ひ煩つてゐました。それは無理の無い事であるとして色色温い御言葉をかけて呉れる人達には心からの感謝を捧げなければならない。併し其の言葉に自惚れて自分迄もが自らを『無理なし』として濟し込んでゐることがどうして出來ませう。出來ると保證するものが有るとすればそれは惡魔の保證であります。惡魔に捕はれる隙の多い自分を悔い、神の歎きを知ることの出來ない鈍感を恥ぢねばなりませぬ

私はあのまことらしい、そして貴所の御同情を唆るに相應しい様な書き振りをしたかも知れない文章、其の文章を綴らうとした心持を足下に踏躙らなければなりません。眞の神は生命を支ふべき食物はちやんと具備して持つてゐる筈だからであります。そしてそのまがふべくもなき事を目の邊り見せて下さる人達が居て下さるからです。

神の名によつてすら『食物を得る』と言ふ時に理性は既に曇つてゐます。『食物を與へられる』でなければなりません。言葉は何れを使はうとも心持丈は、はつきり區別しなければなりません。神を食物を得る爲めのだしに使つてゐながらそれに氣付かず、のみならず『さうする事を神は望んでゐる』等と言ふに至つては言語道斷であります。私は

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

今、私の凡てを晒け出して神の前に罪を詫びなければなりませぬ。

『無知なる者は狂者よりも危險だ』と言ふ西諺を思ひ出します。全身冷水を浴びるの感じが掠め去ります。懺悔の涙が滲み出ます。同時に極く些少の誤謬をも知る事の出來た自分を感謝し悦びます。そして之等の感じが渾然と溶け合つた所其處に生じた雰圍氣の中には常住の安定を見出しも致します。複雜が統合された時其處に忽焉として生ずる單純なるもの、之が人間感情最高の境地でありませうか（神の自體の境地は此の又一段奧であることは申し上げた通りです）一つの歎きでもそれが單なる浮草の樣な歎きで無い事はどんなに有難い事であり、意義ある人生を知らせて呉れることでせう。

私が神の姿を見誤まつた時、換言するならば人の眞實の要求は何んであらねばならぬかと言ふ事に對する理性の作用に狂ひの生じた時、私は私のなした事に就いて詫びなければなりません。併し私以外の人達がそれを犯した時、私は神に對して詫びねばならぬと同時に彼等に對しては自らなる憐憫を催されます、天香師が『私が惡い』と言ふ心持もよく判ります。

『私が惡い』の心持を分解することは却つて其の美しさを破壞する所以であるかも知れない事を懼れます。併しそれは又なにかの役に立つかも知れないとも思ひます。

他人の犯せる罪を『私が惡い』と謝り、他人の無力を己れの無力にして『どうも濟みません』と言ふ言葉は普通の人達にとつては一つの謎であります。此の問ひに對する天香師及び其他同人の答は大體一致して居ります。『自分が不知不識の間に如何なる惡の動因を他人に投げ與へてゐるかも知れない』と言ふのがそれであります。それは誠に尤もな事で御座いまして日常隨分多くこんな實例に出逢ひます之は此の儘尊い體驗で御座います。併し私が此處で申さうとするのは之とやゝ違つた方面からであります。

眞に深き所に生きる人は、自分は自己であると同時に人類全體であるとの靈的感得を致します。彼が神に對する時單なる彼ではなくて人類全體が其のまま縮小された彼であります。彼は人類の代表者と言ふ樣な此の世的な關係よりも更に密接な關係が彼以外の人達との間に存在することを知つて居るのです――よし其の人が此の通りの事を言葉に出して言はなかつたにしても、又言ふ事が出來なかつたにしても。彼は彼の知る限りに於いて彼以外の人達の上に起

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

つた問題を彼自身の問題として考へてゐます。單なる代表者は他人の犯せる罪惡は飽く迄も他人のものであつて自己の罪ではない、ただ代表者たる責任を重んずる上から自分は彼の罪を引き受けるに過ぎないと自ら義人となりすますことが出來るかも知れませぬ。併し人類の縮小されたる代表者は單純な誇りに充ちた義人となる代りに罪惡感に滿ちた義人となります。彼には他人の罪惡は直ちに彼の罪惡であつて、そこに如何なる遁辭もゆるされないことを靈覺してゐるのであります。私達が『私が惡い』の氣持の起る場合を仔細に考へて見ますと其の間何んの事件的な仲介物が無く、どう考へても無關係である樣に思はれるのに中々無關係處か非常に密接な關係が無くては生じない樣な、苦痛や懺悔の情で充ち充ちて居ることが多いのに氣が付きます。

之は自己が單に自己であると考へる時には永遠に解く事の出來ない謎であり、又此の根本思想を變更しない限り、此の解決の鍵を多くの無理がある事に氣が付きつつも、何か自分と他者との間に起つた直接の事件的仲介の發見に求めやうと致します。そしてそれを敢てして落ち付いてゐる多くの人を見ますけれどもそれは外面丈のことで本心はやはり落ち付いては居ないと思ひます。

併し事實は事件的仲介物を超越して居ります。私は率直に申します。光(神佛)こそ唯一の仲介である事を。光の歎きは直ちに彼の歎きを呼び起し、彼の歎は人類の歎きと變じ、人類の歎きは、其の歎きの源泉たりし己れの過失に覺醒せしめて茲に『私が惡い』の形式に迄上つて來るのであります。勿論此の過程は同一瞬間に行はれます。

他人の犯罪に歎息し、不幸を悲しむの情は、非常に多くの人達は氣付いて居り、又自らも不知不識の間にさうして居りますので之を別に怪しむ人は有りません。併し人の過失を我が過失として懺悔する人を見る時人は之をいぶかります。處が不思議な事から申しますならば、自分が惹き起したのでもない他人の不幸を、我が事の樣に悲しむ事も同樣に不思議でなければなりませぬ。然るに一方を當然な事として怪みもしないのに、他方を不審とするのは未だ、それを心から經驗しないか若し經驗しても意識に上らずに終つたか此の何れかの爲であらうと思ひます。『私が惡い』の情が本當に自然に湧き出でる樣になるには、從來の『人の悲しみを我が悲しみとする』の境地を更に深めなければならない事です。

過失を犯した人に向って『私が惡い』と言ふ場合でも、

それは人そのものに謝罪してゐるのでは勿論ありませぬ。其の過失者の中にある『光』に對してゞあります。言ひ換へるなら人類が『光』に對して懺悔するのであります。人間一人の懺悔ではなくて人類全體の懺悔です。『光』は何うして之に動かされないで居りませう。「私が悪い」が異常の功徳を有することは故なき事では無いと思ひます。それは人の最も深き祈りから湧き出づる聲であるからです。

二

私は今最も謙虚な人間の神に對する謝罪に就いて拙くも申しました。併し此の項では私に今聞えて來る神の聲が何んであるかに耳を傾けたいと思ひます。それが私の筆によつて僞瞞されないかを氣遣ひは致しますけれども。

一人の若者は神を判り過ぎる程知つて居ました。それにも關らず不注意にも其全き姿を見誤り危く悪魔に賣らうとしました。若者は困り其の責任を逃れやうとしてはいけない。併し今人類全體は、此の敬虔な若者をさへ今一歩で神を賣る所迄誘拐した程悪夢の中に迷ひ込んでゐるのです。

多くの純な生命は片つ端しから引きちぎられ地獄へ投げ込まれます。

多くの魂は正しきを求め求めて得ず絶望の聲と共に滅亡の世界へ走ります。

多くの善良な魂は其の正しさの故に虐げられてゐます。

又多くの正しき人は其の弱點(實は最も尊敬すべき長所)をつけねらはれて、よつてたかつて嬲り殺しにされます。

今の世の中は之等戰慄すべき光景の不斷の連續であります。正しく生きんとする者は死の代價を執拗に强請され、此の强請から逃れやうとすれば醜き妥協を强ひられ、死も妥協をも嫌へば結局どん底の生活をするより外路を求められない事になります。かくして人は遂に悪魔の輩下となつてゐるので御坐います。

現今些かの妥協もなく嚴密なる意味に於いて悪魔の厄介にならずに生きてゐる人が果して、全人類中幾人あるでせう。悪魔が自慢することを許さない程の人が果して幾人居るでせうか。正しく生きてゐると自ら宣言してゐる所の人も、本當に神の御聲の通りに生きる時、此の世に生を保つ事は出來ないと言ふ不安を微塵も持つてゐないと斷言出來る人が幾人有りませう。無い無い。無いのが本當です。誠の神の子はかく從順に答へねばなりません。そして神の國土の凡てを悪魔の爲に奪去られた人間の不甲斐なさを詫びその奪還を誓つて幾分なりとも安らげ奉らなければない。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

私が如何に巧みに附會けても、私の外部生活が惡魔の世話になつてゐる事實を消す事は出來ません。

私は神の聲の暗き方面のみを聞き過ぎたかも知れませんけれごもそれは眞實なる一面であります。此の樣な世界に於いて、神の全き姿を見失ふのは無理なき事であります。神を知る人は多い、然し見誤らない人は少ない事實を見逃す程私の理性は弛緩して居りませぬ。

古來釋迦あり基督あり、又各時代には聖人賢人あり更に多數の善人が居りました。又居ります。順調に進捗してゐるならば、人類は既に淨め上げられて居るべき筈であります。淨め拔かれて居なくとも、少くも純な魂が地獄に投げ込まれることの無い。正しき命が虐げられない、正しきを求める者はそれに失敗することの無い。此の樣な狀態に丈はなつてゐなければならない筈であります。然るに事實は此の樣に消極的な條件からさへ遙かに遠いのであります。

それは何物かを私達正しく生きんと欲する者に暗示するものでは無いでせうか。

神の國の美しさを、聲を嗄らし體をへとへとに疲らして蓄音機的宣傳をなさうとも又それに使用された言葉が如何に眞理であらうとも、それは惡魔を驅逐する効果が殆んど無いと言つてよい事を知らされます。

賢人善人多數ありとも、此の個個の人々の間は惡魔に充ちて居り、彼等の淨めし足跡を後から後から攪き亂して元通りに汚してしまふものである事を氣遣はされます。

又稀代の聖賢が出現して、叫ぶ代りに眞理を實行し、教化驚くべきものあるとしても、永く續いた傳統的障碍の爲め、其の敎化は單なる末梢神經的のもの多く、生活全體を擧げて感化することは困難であり、同時に舜に次ぐに舜なき以上折角の教化も、其の周圍の根強く跋扈する魔の爲に元に奪ひかへされ易き事を心配します。

釋迦、基督と雖も、此の穢れ切つた世の中から、直ちに永遠の天國を建設する事は如何に困難であり、又精力を勞費しなければならないか、そして結局それは失敗に歸すかも知らない事を思はされます。

一生を捧げて人類救濟の道を説いた釋迦でも基督でも、其の福音を地上に齎した時、二千年後の人類がかくも、虚僞と苦痛と呪咀と怨嗟の渦中に呻唸しやうとは露程も思はなかつたでせう。其の勝ちきつた心は、恐らくは、神佛の不可思議なる力は全世界に滿ち渡つてゐるであらうことを夢見て居たに違ひないと思ひます。然るに事實は彼等を欺

かせると同様に私達を歎かせます。

古來幾多の聖賢は神の道を廣める爲に心身を碎き、其の方法にも拔目は無かつた。併し重要な一つのものを正當に重要視することに手落ちは無かつたでせうか。

『正しく生きる者は滅びる』と言ふ根深く食ひ込んでゐる人類の妄想を根本的に打破し『正しく生きる者は榮える』國土を建設する事は正しきを求むる者の忘れてはならない事であります。之は私達弱輩が黃色い嘴で今更らしく申す迄もない事では有りますが。神の國は我等の『內にある』と同時に『外にもある』事を實證することであります。見えざる所に發した神の國が、見える所に迄運び出されて始めて全きものでなければならぬと思ひます。神の國を始めから外に求むることは固より誤りであります併し一度內に求め得た後は只それのみに安住すべきでなく又單なる宣傳のみに滿足すべきでなく、更に同士糾合して其の國土の建設に力を注ぐことこそ望ましい事であります。

當代各方面に頻りに起りつつある問題は、一見各々異つた色彩を持つては居りますが要するに『天國の實現』と言ふことに歸一するもので有らうと思ひます。其處に色色な團體や運動があつて、其の各々はそれ自身存在の意義を有して居ります。之は人類として祝福すべき事でなければなりませぬ。只自ら重んじて警めなければならないのは、自分免許の高慢と所謂お弟子根情の遍狹に陷ることであります。

現今我國に於ける多數の團體や運動の中、特に正しく生きやうとする者の注意を惹くものが二つあります。一つは一燈園であります他は新しき村であります。前者は火宅に苦しむ人類の眞只中に身をおごらして眠れる菩提心を呼び起し、迷へる人々を救濟し、又己れは其の呼び醒された菩提心に直ちに養はれて生きて人類の迷妄中の迷妄たる金に對する問題に根本的解決の鍵を示し、後者は人類の持つ有らゆる美しきものを生かすことによつて、正しく生きる者が建設する國土は如何なるものであらねばならぬかを、まのあたり示さうと、尊き奮鬪を示してゐます。私は此の二つと時代を同じうし國を同じうして在ることに悅びと誇りとを感じます。

來るべくして來なかつた時は來ました。私達は一燈園の托鉢者の樣に火宅の中に身を投げ込み、暗默の裡に眞理を實行して迷へる人類を敎化すると同時に、眞理に生きる者の世界が如何に美しいものであるかを實證する爲に、新し

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

き村の人達の様な神の國の實際的建設に從はねばなりませぬ。かくして始めて、正しき人は邪なる者の支配と暴虐から脫することが出來、神は生き〳〵とした姿を我々に見せてくれるでせう。純なる命は地獄に投ぜらるることなく、正しきを求むる者は絕望の淵に沈淪することなく、神の子はむざ〳〵惡魔の擒となることが無くなるのでせう。そして其の時こそ殘りの迷へる人達は、叫ばずして永き惡夢より醒め眞理の下に歸服するでせう。今日のままでは、如何に聲を嗄らして叫ばうとも、心から眞理に歸服するには、凡てが餘りに惡しき狀態にあるのです。

『眞理に歸れ』と私達に告ぐる神は內的にも外的にも其の國を準備してある筈であります。それを今日迄の道を說く人人の多くは、外部的には安價な見切りをつけ、精神的な神の國の建設に偏重したのではなかつたでせうか。精神的の神の國と形態的神の國とは不即不離であらねばならぬものを人間の不注意が一方を輕く見たが爲に今日迄多くの尊い努力は思はしき効果を上げ得ずして終つてゐるのでは無いでせうか。釋迦出でて二千五百年、基督出でて二千年、人類社會尙は斯の如きを見る時、我々は夙に心を靜めて實在者の聲を聞き返へして見るべきであつたのであります。

そして今日それはなされました。一燈園・新しき村・（其の他之に類を同じうするものも勿論入ります）の人達によつて。日本は、否世界はやがて擧つてそれを誇りとする時が來るでせう。

古き齒を無理に取り去ることは勞多く効少なき術であります。併し新しき齒が生ずる時古きものは自然に拔け落ちます。根深く喰ひ込んだ人類の迷執を無理に取り除かんよりは無理な分丈の力を、小さくとも、又一見不可能なことに見ゆるとも、眞實なるものを培ひ育てる事に用ふるの賢策なるを知ります。迷執は自ら其の足場を奪はれるでせう

最近一燈園の內部では『光化運動』なるものが提唱されて居る樣で御座います。單なる宣傳、教化以外に、建設と言ふことに充分意を用ひての運動と拜見致して居ります。それは當然かくあるべき事と存ぜられます。今日の一燈園が在來の形式の上に更に「新しき村」の形式に則つたものを加味した時に、それは鬼に金棒であると愚考致されます

私は駄辯と饒舌を弄び過ぎた樣な氣が致します。言ふべき事を言はないで、言はなくてもいいことに氣を奪はれて居た點も多いに違ひ有りませぬ。又貫徹した一つのものを缺いて多岐と不徹底とに墮した樣にも思ひます。只私が神を食物を得る爲の方便にしやうとした事に氣が付いた時、私の腦裏を掠めたものが何んであつたかを幼稚に羅列したものであると思つて下さい。（了）

接物　鈴木五郎

冬から春へ（詩十二の内）

鈴木五郎

接吻

雨上りの朝は
土と埃との
接吻

私の箒の
罪深さ

南無阿彌陀佛と
掃き終れば

おゝ、あざやかな
祈りの跡

泥の錢

せまい道路に
ちらばつた塵を
掃き溜めてると
何處からか子供が
飛んで來て
その掃き溜めを
掻き廻す
ちびた下駄や
けばだらけの藁草履で
蜜柑の皮や　紙屑や
泥砂の中を
鷄が餌を探がすように

私は初め
子供達が　意地惡を
するのかと思つた
しかし　それにしては
その顏は　餘りに眞面目で
その努力は　餘りに一生懸命だつた

或る朝
一人の女の子が

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

やはり鷄の餌探しを　やつた
そして　ひよつこ屈んだかこ　思ふこ
ローマを陷落させた　將軍のような
勝ほこつた　嬉しそうな
ほゝえみが
その眼やにこ　鼻糞で
眞つ黑な顏に　浮かんだ

「やつ、あつた」こ云ふ
低い　力强い　叫聲こ一緒に
その兒は
片手を擧げて　飛び上つた
その掌には
泥に汚れた　一錢銅貨が一枚
しつかりこ　握ぎられて居た

あゝ、人生の若芽から
蝕まれた魂よ
私は慓然こして
祈つた

嬉しそうに　蓬の髮を
波打たせて　驅けて行く
小さい後姿を
見送りながら――

眞珠の御飯

朝二時間の
道路掃きを終へて
私は　かまごの前に
合掌する

火は默して燃へ
湯は歌ひながらたぎる

家中でマッチ工場へ通ふ

お辨當の殘りの御飯を
お釜からじかにうつして
立ちながら　お澤庵で戴けば
血こなり　肉こなる　うなり
障子は破れ　周圍は煤

荒壁一重のうしろは
便所なれど
貧しき心よりの　菩提心に
養はるゝ勿體なさ

思はず又も合掌すれば
御飯は眞珠か
まばゆく光る

雲と水

私の悦びは
空飛ぶ
雲か

私の悲みは
地下を流れる
水か

おゝ　私は
大地へ
ころげ落ちた

隕石

春が來れば
草が私に
囁く
秋が來れば
霜が私を
抱く
されど　私は
空を戀ふ

あの雲は　何時かは
地下の水
この水は　何時かは
天上の雲

悦びも
悲みも
思ひ到れば
まことに一如だ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

一如是空と
知りながらも
何を思ふか
この捨石

路　上

縄飛びの　麻縄が
しかみつ面の　地べたに　ふれて
ぴた　ぴた　ぴた
蓬の髪に　ごろごろの着物
赤い附け紐の　女の子が
空を見ながら　無心に飛ぶ
風の寒い
貧民窟の
裏通り

ゆ　き

雪がふるふる
淡雪　小雪
屋根の上にも
窓のふちにも
細い露地の
どぶ板にも
そして
一日の働きに
ほつと疲れた
私の心の
上にも
煩悩　菩提の
雪が降る

筧　の　水

筧の水の
音なく落ちる
そのたまゆらに
御佛います
南無——
皆懺悔
冬の日は
もう暮れ近い
鹿ヶ谷

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

枯すゝき

私は河原の　枯すゝき
お前も同じ　枯すゝき
ごうせ二人は　此の世では
花の咲かない　枯すゝき

赤い煉瓦の　工場の中で
悲しい聲で　女工さんが　唄ふ
嗚呼、人生の秋の　すゝき原

外には淋しく　雨がふる
赤い煉瓦に　雨がふる

葱畑

町の端れの葱畑
その隅の　肥溜めへ
擔ぎ八百屋の　御爺さんこ
通りかゝりの　若者二人
三人竝んで　小便すれば
春の日に
すくすく伸びた　葱の葉が
みんな　げらげら　笑つてる

共成湯

私のいつも　入れて頂く
番町の　共成湯は　二錢です
深海に漂ふ昆布のような
布簾をくゞれば
脫いだ着物こ　泥下駄の雜居

ライビヨノ人
ヒゼンノ人
ガンガサノ人
コドモデキテ
七日マデノ人
其筋の命により入浴堅く
御斷り申上候　主人
トラホーム施療（たゞであらいます）

場所　金樂寺太鼓堂内
　　神戸市役所

そのほか　はめ板には
御說教やら　讓店の廣告やら
べたべた張つてある

濛々とあがる　湯氣のうち
セメントの湯槽の中で
河童小僧が　跳ね廻る

ぬつと出た　力こぶの
たくましい腕
赤くたゞれた　まぶしそうな眼
かさぶたと　白雲に
手のつけられぬ坊主頭

薄暗い電燈は　黄色く光り
湯は灰汁のように濁る
洗ひ場は　唉と垢で

ぬるぬるすれど
一日の汗を流せば
ゆで蛸のように
疲はなをる

上りがけに
水十杯を
頭からかぶれば
秋の深山の　さわやかさ
おゝ、あなたは　やつぱり
惠み給ふ

一九二三、二—三、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

マッチ工場

迎 久 義

床にベタリと、ごろ〳〵の座蒲團敷いて、
澤山な女工さんが、
燐寸の棒を箱づめしてゐる。
その中を箱配りのばあさん達、
センコ(燐寸棒)運びの少年工が、
セイロ抱えて右往左往する。
あつちでも、
こつちでも、
マッチ場の唄。どん底の唄。
露骨に曝け出した淫ら話の哄笑。
子供達の泣聲。
センコさいそくのわめき。
燐と鹽酸加里の匂ひと、塵とが
一緒くたになつて、部屋中に渦まく。

ベタ〳〵とオナゴさん達は、
裸足でも歩くが、
こゝは下駄ばきの床。
どこも、かしこも、
マッチの屑。
眞黒に腐つたバナナの皮。芋の皮。蜜柑の皮。
糞小便は、
小供等の、自由自在のたれ流し。

その床の上に、
幾人かの小供が眠る。すや〳〵と眠る。
可愛いお手々を萬歳して、
ふく〳〵と太つた頰ッペタを林檎のやうにして、
おゝ幼き者よ。
神の使よ。
御身の夢はいかに、
御身の吸はるゝ息の上に
倘ほこりを立てまいと思ひて、
氣をつけつゝ
俺は箒を動かす。

穢多よ、非人よ、地下人(チゲ)よと
蔑まるゝ人々の中に生れた
幼なき者よ
せめて
御身等の夢のみは、まどらかなれよ。

——大正一二、三、二、——

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

思ひついたまゝ

仙臺で　海野倫悟

私は去年の今頃から、たえず雜誌「光」によつて天香さん始め同志の方々の言はれることなどを知らせていたゞいて大變に愉快に思つてゐます。今日も、天香さんが私等の要求は大別して、「落ちつきたい」「人を落ちつかせたい」の二つだと言はれたのは、まことに尤なことだと思ひます。

昔、ユダヤの聖人ヒルレルが、人と社會との關係に就いて簡單で而も明瞭な言ひ方をせられました、丁度天香さんの御言葉に符合して居ります。「自分が自分の事を考へねば誰が自分の事をかまつてくれませうか。けれども若し自分が自分の事ばかりを考へてゐたら、誰のために生きてゐるのでせうか」

所が、今の世の中では、前の言葉の前半のみを採用して後半の事をおろそかにする人達がはびこつて來ました。そこで多くの悩みが起つてくるのでせう。ダーウヰンが進化論を出して、優勝劣敗、適者生存と云ふことを說きました。これはもつともな事です。たゞ多くの人々がそれを誤解し、曲解して、自分だけよければよい、他人の事は構はないでもいゝと採りました。そこで惡がはびこるようになりました。河上博士はこれを露骨に道德化してかいた本は、一七〇六年、英人マンダヰルの「密蜂物語」だと言つて居られます。それには各個人の惡行はやがて社會公共の利益となるとあるそうです。「個人の惡」とは、各個人が各自の物質的利益を計ることです。

お金持の人々は色々と有難い公益事業をしてくれます。それは「私の惡」から出たものだけれども、今の世の中の仕組では、そうするより外仕方なく出來てゐます。自分のことは自分で責任を以て、自分が氣を附けて行かねば社會は構つてくれないといふのですもの。天香さんは、しかし、この考へ方はよくない。こんな世の中に於てでも、そういふ間違つた「私の惡」をやらないでやつて行けると云ふやり方の生きた手本を示して下さいました。愉快なことです。

クロポトキンと云ふ人も、人々がお互に扶け合はねば生きて行けないと云ふことを說いて、ダーウヰンの進化論の誤らない見方を敎へてくれました。インドでは、ガンヂと云ふ人が、惡い制度に打ちかつ道を宣傳し實行してゐられるのは誠に頼もしいことだと思ひます。松下さんもこの點をだんだんはつきり唱へて來られるようになられたのを大

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

變嬉しく思ひます。

ガンヂの運動を「無抵抗主義」などと言ひますから、少し誤解を起し易いと思ひます。「眞理の力」の力強さを後ろ楯として眞直に正しい道を突貫しようと云ふやり方です。そして途中に障害があつたならば「無暴力的抵抗」をするのです。この無暴力的抵抗こそ大切でありまして、惡に對してこの抵抗を敢てしないならば、それは善への道へ進むのではなくつて、邪道へ踏みこんでしまうものと思ひます。私はたえず一燈園同人のやり方が、こういふ邪道へ落ちこんで、徒らな骨拔きの運動になりはしないかとおそれてゐます。

松下さんが「一つの申出で」に於て、「光の友よ、團結せよ」と說かれたのは、まつたく時宜に適つたものと思ひます。ほんとに一人の力は弱いものです、お互に勵ましあつて行かないと、ともすれば光を失ひます。まことに光に照らされた道は愉快なものです。同志の者が手を握り合ふ事こんなよりやり方が他にありませうか。

寂しき春

かなめ

跳釣るべはねたる上の柿の木の
　あらはの枝に夕月の見ゆ

跳釣るべたゆたえかゝる夕空に
　のぼりて早し十三夜の月

跳釣るべたぐりつ覗く井の中に
　白き花もてり雪の下の草

時刻來れば自づと目ひらく寂しさよ
　今は勤めもあらぬ身なるに
　　——失業して——

一夜さの別れ惜める友の寺の
　こゝも盛りぞ白梅の花

吾が友の誦經の聲に目覺しぬ
　白梅かほる寺のひと間に

葺き更へし藁屋あかるし土しめる
　杉の並樹の坂下り來れば

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

光明へ

八田勝三

所謂菩提心に養はるゝこは、唯心的な云ひ方であつて、結果に於て、現代にあつては、私有財産制を維持する賃銀制度に拘束されない喜びを伴ふやうである。然しその喜びに幻滅されて、稍もすれば無意識の裡に、組織悪に對する嚴粛なる凝視をも痲痺させ勝ちになつて居ることは、同人こして留意すべき事柄ぢやなからうか？ 單なる宗教的生活の如く批判せられ、時には社會運動の促進を阻害せるやに難ぜらるゝも、その原因はこの邊りに胚胎するやうである。此儘調和されたる世界だこ觀ずる宗教的見解を、私も肯定するが、それは一個人の心境であつて、人類の大多數が、貧窮こ無智に泣く社會的事實は、飽くまでも檢討され、完全なる相互扶助にまで躍進せしむ可きを、忘れてはならない。

○

組織悪を感じない人は違つた世界に住んで居る方だ。感じつゝも、それに拘束されない生き方を知らない爲、已を得ず從來の生活を諦らめの裡に續けて居る人は氣の毒な方だ。組織悪は必然的に早晩變革されるだらう。然し人生は「今」なんだ。理想の日を夢みつゝ、新社會の現出を翹望して居る程、私達は呑氣であり得ない。次の瞬間には死が待つて居る。

愛する人々よ！ 如何なる時代にも、眞に生きる道はある。なくてかなはぬものは一つなんだ。組織悪の助長を怖るゝものは、即刻新らしい世界へ突入すべきだ。たこへ一瞬の遲滯こ雖も自己の人格を無視せるものである。同時にそれは自己の死を意味する。

○

一日の裡に、幾度か色んな人々の事を思ひ浮べては、心から祝福を送り得る喜びを感謝する。「思出の國」を訪ねたチルチル、ミチルに對して話した、祖父さん、祖母さんの言葉は、其儘生きて居る人達の間にも、あのやうに考へたいこ思ふ。私達が何人かを思ひ浮べて、濡れたやうな心持になつて居る時、法界に於ては、きつこその人に遇へて居るのだ。僅か二つ所にすら同時に居れない私達には、此の境地を肯定して、始めて落ちつけるやうに思ふ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

茶話のあと

失名氏投

○

去る秋の夜、我校修養團員が天香西田氏と同席するの榮を得た時、潜越にも氏に對して質問の第一矢を放つたのは私でした。今から思へば實に赤面の至りですが……今其の會話の大略を浮ぶが儘に書いて見ます。

私の質問「先生、誠に失禮ですが……一寸御尋ねしたいのですが。」先生の御答「はア何なりと……。」私の質問「では……先生なんですか……今御やりになつてゐる托鉢其のものを斯の實社會に普及せしめたい、全部の人間にあの形式に於ける托鉢を御希望なさるのですか。それ共、此の煩雜な互に侵し合つてゐる社會の一清涼劑として、凡ての悶え惱んでゐる人々を一度あの生活形式に入らしめて、聖貧の光榮と婪貪の暗黑さとを痛切に感ぜしめ、一燈園生活を透した人生觀宇宙觀に立脚した人間となり、再び此の實社會現實社會に立返つて穢土を淨化することをですか、言ひ換へて申しますならば、托鉢生活中に或一種の靈感とでも云ふものを感受して其を何時迄も忘るゝ事なく、而も此を一般社會に應用し……とでも申しますか……そんな工合にすることを御希望なさるのですか、即ち心的托鉢をですか。」

先生は此の低い質問に對しても御懇ろに種々御說き下さいましたが今は記憶が餘り確實でありませんから記憶してゐる中を更に縮めまして其の梗概を記して置きます。

先生「左樣……それは私の考からしますれば……此の托鉢其物が最もよいものだと思ふのですが併し……靈感……とも云へますが……まあ此の托鉢は實社會に出してもよいのです……現實社會にも應用の出來ぬ事はないのです。」（石井馨）

○

「一燈園では、學者の勉學と言ふ樣な精神的托鉢を認めますか」

「肉體の托鉢も勿より必要ですが、それと同じ意味に於て精神的の托鉢を認めます、現に私（天香師を指す）が斯うして

連日講演にかけ廻つてゐるのも畢竟精神的托鉢に外ならぬのです」（島村生）

〇

全然聞き違へてゐるかごうか知りませんが、私の問を次の樣に私は考へてゐます。私は、私の周圍の人も不安に惱み目標に迷つてゐます。又一方には、瘦て贅澤に暮すに反し、一方には働いても働いても充分に食し得られない人があるこ聞きます。精神的にも、物質的にも惱み苦しむ者に對して、力なき私には、統一的のものを得られないので次の樣な意味のことをお尋ねしたこ思ひます。

「先生は苦んでゐられる人に對し求めに來られる迄は、捨て置かれるのですか」

「さうです苦しんでゐるかごうかわかりませんから」

「それでは食ふに困つてゐる貧民窟等の貧乏人に如何なる態度を取られるのですか」

「そんな人に自分の食物を分け與へて食べます、そして自分の樣に働けこすゝめます」

先生は本當の自己、內面的、衝動的な深い心に從へこ、言つてゐられる樣に思つたので質問を止めました。

又暫くして次の樣な問を致しました。

『一寸待つてくれ、はい。」こ言ふ事が一燈園の生活だこ申されましたが、若し「こうしてくれ』こ或人が言ひ、他の人が、その反對の事をしてくれこ言つた場合、或は小さい父への孝こ大きい父への孝こあつた場合大きい孝即ち深い內面的の聲に從ふべきですか、親が金錢的奴隷の如きものを、要求する場合一時的にもせよ、或は父の生きてゐる間迄こか言つても、そのここを欲せざる場合にそれに從ふは、大きい聲に背くから、あく迄、その大きい聲に從ふべきでせうか』それに對し、大きい自己の內面に生きよこ言ふここを申されたこ思ひます。ランプが倒れるこきに手で自然に支へる樣に、自燃に自己に生きよこ申されたこ思ひます。（河田利雄）

〇

『若し自分が一燈園生活を正しいこ信じて行ひたいこ思つても親が事情を知らず許さない時はごう致しますか」

『貴方はどうしやうと思ひますか』
『判りません』
『その時には私の方でもどうせよと云ふことは出來ません、只貴方はどうなさいましたかと問はれた時には私は先刻申した樣にしたと答へます』
(質問はこれで打切られました。それから他の人達の質問があつて再び私に向つて先刻の質問はどんな風であつたかを聞き質された後一番最後に天香氏は次の如く附け加へられました――吉村――)
『今一度先刻の事を御答して置きます、唯貴方から質問せられたときには私は判らないと答へます、貴方が親の厄介になつて居る間には矢張親に從ふべきであらうと思ひます。それは先刻の戀愛問題と同じ事です。併し若し貴方が一燈園に向つて賴まれた時には私の方では一燈園の名によつて賴まれて貴方の身の立つ樣にします、若し親が不承知である場合には又親の諒解を得られる樣な方法を採りませう。貴方が貴方自身の立場にある場合には私の方では何とも申されません。但一燈園にたのまれたならば私共は一燈園の名によつて貴方の身の立つ方法を講じませう』(吉村武重)

○

『兎に角偉大なる努力によつて或人が園の生活に入り、立派にその生活を體驗しそれに徹底された事と致します、然るに蓄財に非常に興味を持ちそれに唯一の幸福を求めて居る老いたる人を父とし且その商家の一人息に生れたる彼は園の生活を修めた後も是非家に歸つてその店を繼がざるを得ない境遇にあるものと假定致します。この場合彼が父の意見に從ひ歸宅して父を助けつゝ商業に從事するものとせば彼に玆に二元の生活に逢着しはしませんか即彼が少くとも現在の經濟組織を肯定し商賣の繁榮に努力する場合既に園の生活に於て無所有の淸規を體得し不二の光明によりて生きたる彼はあの凡ゆる虛僞と欺瞞とに滿ち忌はしい爭鬪と慘虐とを事とする現在の商戰場裡に於て活躍せざるを得ざるに至れる場合には父と家とを捨てゝ光に仕ふ可きや將又父の爲、家の爲この矛盾を甘受すべきやこの二元に打つかる事と思ひます。この場合に如何すべきでせうか』

答『わかりました、併し園の生活を眞に體得せられた息さんによりたとへその息さんが父の意思に從はなくて凡ては光により確に救はれ得る事と私は固く〳〵信じます』

問『私もそう思はれます。では更に岐路に入りまして頑固一徹の父を如何にしても救ふ事が出來なかつたと致します。乍併昔の甚だしかりし經濟組織の缺陷を思ふ時そこに育つて來た父の頑迷を責むる事の決して正しからざるを知る時には蓄

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

財を唯一の生命とする父の老後を慰めんとの切なる念願を有する彼は如何にしても身を殺して父に從ふより外なきに到る事と思ひます。然らば前述の通り園の生活と到底相容れない現在の經濟組織を肯定して親を滿足さすか或は假令親の不合理は責め得ないとしても親の爲に彼としてはこの經濟組織をそのまゝ受け容るゝ事が出來るか——當然このデイレンマに陷る可き彼は此場合如何にしたらよろしいでせうか』

答『それは仕方がない、その樣な場合に於て彼の親を滿足さす事それ自身は不合理ではあるが今言はれた樣な譯だから彼のその場合になすべき事は寛い愛を以て一切目を冥ぶつて親の生存中その所謂幸福の爲に商賣に從事してやるがよい、而て親の死後直に一切を捨てゝ園の生活に立ち返つたらよからう』

問『然らば親の爲に愛の名によつて一切をなす時自分と第三者との間に起り得るものと想像し得らるゝ或種の爭鬪虛僞などに對し彼の負ふべき罪は如何すべきものでございませうか私はそれら一切を現在の經濟組織の根本に於ける缺陷に歸せしめたいと思ひます』

答『それは決してその人の惡いのじやない、その缺點はその人の父にあるのだ、だから彼は心に一日も早く園の生活の實現せん事を祈つて愛の名によつて凡てを處理して行く可きだその事は決して彼の罪ではないのです』（T生）

○

問『今先生は神を認めないと仰しやいましたが先生の常に仰せらるゝ光を神と名づけては如何でせうか』

御答『神と稱びたい人は神と稱んでもよろしいでせう』（竹末）

○

問『子供は遊ぶのが托鉢である病人は病床に横はるのが托鉢であると承つた事がございますが、同樣に學生は勉强するのが托鉢でございませうか』

御答『若しその學生の勉强することを親が許して居られる場合には少くも親に對して丈は托鉢して居る事に當ります。併しその場合でもその親の出して居られる金が——例へば社會主義者によつて非難せられる樣なものであつた場合にはその學生の勉强は學生であるから勉强するのが托鉢だとは俄に斷言する事は出來ませぬ』（水谷）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

一燈園日記

三月十七日　くもり
橫濱一燈園の拜田白路さん、ひよつこり巡禮姿でお見えになる、恰度一年振りである、二三日休養して更に巡禮の旅に出られるとのこと。夜に入りて雨となる。

十八日　あめ
一昨日は鈴木啓文さん、今日からまた住田蓮車さんが十字街頭に立たる。

二十日　はれ
小林古陵さんから折に面白いスケッチの葉書を頂く、須磨の邊に居られるらしい。曾て園に居られた盛岡の安保まさ子さん、廣島の土井朝代さんのお二人が珍らしくお見えになる。それからまた氷置茂太さん、大學病院に入院中の相賀靜枝さんもお見えになる。渡邊好文さんは東京へお歸りになる。

二十一日　はれ
おとなりの靈鑑寺のお庭には遲咲きの紅梅が美しく朝日に映えてゐる。西川惠隆さん、いよ〳〵西國巡禮の途に上らる。其後神戸の須磨寺に托鉢して居られた住田蓮車さんお母さんの病氣危篤の電報に接して御歸園、直ちに東京へお歸りになる。原米彥さん、久米直之さんに大阪より、神谷吉次郎さんは名古屋より、大塚秀雄さんは鳥取より、いづれも御歸園。

二十二日　はれ
河村清太郎さん、中藤たみ子さんのお二人は天香さんの講演旅行にお供して堺市へ。宇戸つる枝さんは長濱へ托鉢に行かれる。

二十三日　はれ
濱松の宮田伊兵衛さんから雨傘のお供養がある。今日は一宿雨餐のお客さんが七名程お見えになる。

二十四日　はれ
夜、天香さん御歸園。珍らしく勝淳さんもお見えになる

二十五日　はれ
近頃、十字街頭に立たれる方が多い。さきに高頭菊四郎さん、原米彥さんが出られ、今朝また宇田川さんが出て行かれる。久米さんは今日御歸國。大塚秀雄さんは再び鳥取地方へ。昨夏在園せられた島根の大谷嘉助さんが珍らしく御來園。夜は鳥谷さんの奧樣がお見えになる。

二十六日　はれ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

山から導いてゐる筧に處々破損の箇所があつた水が餘所へ洩れて了ふ、その修理の爲めに或は地を掘つたり、或は繩を捲きつけたりして大騷ぎをする。住山丁觀さんは信州より、大澤金一郎さんは岐阜よりお見えになる。東京の東海林源吉さんが新しく御入園。

二十七日　はれ

山崎獘藏さん御歸園。拜田白路さん再び巡禮に出られるお客さんは慶大の學生さん、小學校の先生など六七名。夜天香さんがお見えになり禪堂で一時間あまりのお話があつた。

二十八日　くもり

後ろの山に彼岸櫻が美しく咲いた。筧がすつかり修復され、またチヨロ〳〵と涼しい水音が聞かれる。因伯時報社の福田秀太郎さん、福山師範教諭船田哲さん御來園。福田さんは暫し托鉢したき御希望。

二十九日　はれ

大阪同朋園の清水精一さんがお見えになり夜遲くまで一園燈生活の徹底といふことに就いて有難いお話をされた。

三十日　はれ

お遍路の西川惠隆さん、伊勢路に入るとの音信あり。木暮侃乘さん、俄かに東京のお宅に托鉢すべく立たれる。

三十一日　はれ

藤田淡如さんが默々として畑を耕したり、牛蒡、大根などの種子を蒔いたりして居られる。臺灣の官吏をして居られた六十近い古川賢太郎さんは正月以來眞劍に托鉢して居られたが都合により一度歸臺されるとのこと。夜、十字街頭に立たれた鈴木啓文さん半月振りで御歸園。

四月一日　はれ

花園で金川さんが經營されて居る農園は段々完成に近づくさうである。お民さんのお病氣も漸次快方に向ふとのこと。相さんは相變らず家政女學校に托鉢。深く〳〵祈をこめて居られる。

二日　はれ

水谷さんから雨傘のお供養がある。鈴木千賀子さん、望月だい子さん此頃病氣の爲め園で靜養して居られる。

六日　くもり

住山蓮車さん東京より御歸園。

七日　はれ

雨あがりの日本晴。赤木嘉子さん、安保まさ子さんお二人づれで西國巡禮の旅に出られる。白菜と馬鈴薯を植える。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

八日　はれ

住田蓮車さん再び十字街頭へ。午後珍らしく大風が吹く。横濱の今西病院長古賀博士、國民新聞社の大浦孝秋さん、臺灣の松本安藏さん其他滋賀縣の青年團員など多くのお客さんがお見えになる。松本さんは臺灣の辯護士さんで熱心な一燈園生活の皷吹者である。今では職業をもおやめになり、何か社會的聖化事業に携りたいとの希望で御自分の御資産を提供して種々なる試みをされて居る。夜天香さんがお見えになる。

九日　はれ

當番の海野鏡圓さん講演の約をはたすため午後五時の汽車で岐阜へ向はる。住山了觀さん、森田誠子さんなどお一緒に行かれる。

十日　はれ

今日は朝からお客さんが多い。東京市社會局の武元茂さんが深川區方面委員の方拾名程と御一緒に來園。社會事業見學のためであるとのこと。慶大の樋口三代吉さんが天香さんの講演を頼みにわざ〳〵來園さる。大阪同朋園の清水精一さんがお見えになり園の古い方々と二三時間お話をされて即日歸阪された。

十一日　はれ

夜、天香さん御來園。

十二日　はれ

朝、澁谷さん初め園に殘つて居られる婦人達四五名で、更らに園の內外を美しくお掃除をする。時候の變か、前夜來、めつきり寒い。櫻の花がほろ〳〵散りそめてゐるのに比叡山や北山一帶は一夜のうちに雪に包まれて眞白になつてゐる。傘、下駄の古いのを集めて皆で焚火をする。

十三日　はれ

當番の海野さんは岐阜からお歸りになる。夜、天香さんが御來園。

十五日　はれ

海野さんのお母さんが岐阜からお見えになる。元氣な方で若い方々四五人と連立つて裏山へ柴刈りに行かれる。天香さん勝淵さんが東京方面へ行かれるので松本安藏さん、酒井忠男さんその他婦人達二三名がお供をする。

（藤田記、河村抄錄）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

返照錄

◇安藤州一師（京都）　拜啓　梅雨の候降雨少きことに御座候、未得拜眉候へども平素御芳名は承り居候、今回は圖らず貴園の御方々に深厚の御援助を蒙り感謝の辭無之候、荊妻事二年間計り女中無しにて家庭を經營致し居る中長女の入學試驗有之日夜兒女の爲身心を勞したる結果にや且つは七八年前肺炎を患ひし餘孽にや二月三日夕より流感にかゝり神經衰弱となり急に女中を求め得ず百計盡きて貴園に御援助を御願ひ致せしに幸にして御援助を得闇夜の燈火の思有之候爾來五人程御來援下され目下中島せつ子殿御來援下され御盡瘁中病人も或は九死の中より春風を回へすかと前途を嬉び居り候昨日よりは病人に靜座を一日に三回ほど勵行致させ居候精神の力にて病魔に打ち勝ちたき希望に候但しそれには八方よりの御惠みを受るは勿論に候小生平素病氣にかゝるは男子の屈辱なり是れ天理に背きしより起る事と信じ居候處に家庭に大病人起り何とも世間に申譯なき次第に候此上乍ら園の御援助偏へに願上候先は御禮旁貴意を得度如是。

猶如蓮花無所着

悩み悩み悩みはてたる深泥よりかゞやき出づる白蓮の花。（天香師宛）

◇山田正雄兄（栃木縣日光町）　しばらくごぶさたいたしました。

だいぶ　おさむくなりました、どうぞおからだを　だいじになすつていたゞきますやう　おいのりをさせていたゞきます。

はゝのびやうきも　よくなりまして　もうあるけるやうになりました。きんこさんはあさから　ばんまで　ちうじつにやつていてくださるので　ありがたくて　みんなでおがましていたゞいてをります。ちかごろはゝも　やさしくなりまして　なみだがでます、それも　これも　あなたのおみちびきによることゝおもひまして　かんしやいたします。みせも　できましたから　ぼつ〳〵　はんを　ほらせていたゞきます。

せんじつは　ありがたい　おはがきをありがたうございました。このしやしんははゝの　みちびきに　よりまして　けつこんしきのすがたです。わたくしの　おとをとが　とつたのです。

どうぞ　みなさまへ　よろしくねがいます。（天香師宛）

◇山田きん子姉（栃木縣日光町）　大變御無沙汰申上げました。

大分御寒くなりました。いつも御多忙な先生の御身體に、おさわりのない樣、御すこやかで被在る樣にお祈りをさせて頂きます。

皆々樣の暖かいお惠みに養はれて、私達はさしさわりなく、許されて結婚させて頂きました。有難うございます。私の樣な愚か者にはお禮の申上げ樣も、御恩の報じ樣もわきまへません、せめてもの御恩報じのつもりで、此上罪を重ねぬ樣に祈らせて頂きます。

此の頃は母樣の病氣も大變よろしく、お歩きになる事もできますし、正雄樣もいつも御親切に御世話下さいますし、いつも私の樣なものを拜む樣にして下さいますので勿體なくて私は尙更自分の愚かさが恥かしくなります、私は唯々感謝の外は何も申せません。

何卒、先生の御からだが御達者であります樣に祈らせて頂きます。そして許されてならば又先生に御目にかゝる事のできます樣に重ねて祈らせて頂きます。

どうぞ皆々樣によろしく御傳へ下さいませ。（天香師宛）

◇谷田部信量兄　去る八日鈴木五郎さんと共に山崎繁藏さんが訪れて來て下さいま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

て先生の御近狀も伺ひました。東北地方行脚に御出掛けの由、福島縣は私の生れ故鄕です、先生の道がすみ〴〵迄も擴り皆々光の恵を浴びます樣にと祈つて居ります。

東奔西走寸時の御暇もない先生に御報せする程のこともありませんのですが私の貧しい歩みのあとを略まし見て頂きたいと思ひます。

山崎さんが來て下さつてからは變つたものが二人迄にもなつて注目の焦點が大きくされました。默つて歩まして頂いて居りました私の態度の說明と云ふ樣な形にもなりまして種々の方面から目を注がれ大分緣も延びて行きました、發電所の勞働者の仲間の人達も可成問題にして吳れまして思はぬ人々に結緣させられました。表記の平山さんの宅には增々緣が深くなり可成の了解もして下さつて今では平山さんの宅が中心になつて私等の祈りを進めさして貰ふて居ります。只今私は山根と云ふ木船工場へ寄せて貰ふて居ります。もう五六日になりますが每日物置の整理や工場內の掃除をさせて貰ふて居ます。秋の日は高く空は晴れ海は靜に澄んで居ります。山の樣に積んである塵をざるに入れて裏手の海に捨てに行きます。汚ない處が淨化されて行くのは實に愉快です。ふと今日は「懺悔の生活」の中にある木屋町邊の裏にごみを捨てに行かれる先生の御姿や河原に障子を洗つて居られますお姿が想像に畫かれて自づと寬いだ好い氣持になつて働かせて貰ひました。

山崎繁藏さんは先生の御指圖とかで二三日の豫定で一處に托鉢して下さると云ふことでしたがあれからずつと落ちついて此地に留まつてゐて下さいます。始め四五日は私と一處に發電所や平山さんの御宅で托鉢させて貰ひましたが只今は松岡といふ土木請負師の宅に賄方やら家庭內の雜事に奉仕させて頂いて眞劍に祈つてゐて下さいます手不足なこと、家庭內に複雜した問題（夫婦別れと云ふ樣なこと）などがありましたものですから大變に喜ばれ因緣が大分に深まつてまゐりました。問題の解決はまだつきません樣ですが私共の生活が知らず〳〵の間にこの渦中に取入れられてお互の罪の反省にも役立つてゐる樣にも思はれます。問題はどの樣になつて行きますか私等は只問はれゝば障りなき限りに答へ、あとは默つて下にゐて働かせて貰ふて居ります。光の鮮かな裁きも拜まして頂きたいものですが不德な私等にむづかしいことです。二日目の托鉢の日にお內儀さんは泣いて夫や先妻の罪を數へて私等に怨ひました。見れば指には重そうな金指輪が二個迄も輝いてゐます。私はその時つく〴〵思ひ比べてみました。物質的享樂の世界にだけ生きてゐる人の氣の毒な境界と無一物ではあるが恵まれて活きてゐる自分達の有難い活き方を私等にそれに對して只管にあやまらして活かして貰ふてゐます、この生活の內容をざつと話させて貰ひました。御內儀さんは大分心に應へてきいて下さつた樣でした。其後お內儀さんは家を飛び出したりして大分家中の者を騷がしたのですが今は連れて戾つてゐます。山崎さんが直接祈つてゐて下さいますので其後どうなりましたかこれから御訪ねしてみるつもりです。

もう一人勞働者の方で家庭を中心とした內面の苦しみを打ちあけて『こんな時はどうしたものでせうか』など、相談を持ちかけられた時があります、其人は大分私共の話し方に興味を持たれ色々訊れて吳れまして參考にして反省してゐて吳れます。園にゐてはついぞ實際問題の整理といふ樣なことに行きあたりませんでしたがこちらへ來てはたちまちこんなことに當面しました。何か尋れてみやうと思はるゝ方のありますのは本當にありがたいことですが不意打さ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

れると一寸面喰ひます。うか〳〵して居られぬぞといふ樣な氣持にもなり引きしめられます。自然によい修業をさせて貰ひます
先生は本月末に御來神されるときいて居ります、お待ち申して居ります。何卒その際は足らない處を訓ひ導き下さいまし御願ひいたします。
切に先生の御健康を祈ります。合掌（天香師宛）

◇横山秀英氏（靜岡縣島田町北河豊次郎氏宅にて）御別れして此の地に留るやうになつてから二旬の日が早くも過ぎました。お陰樣にて相變らず無難に進ませて頂いて居りますこと、御安堵下さいませ。

扨、去る三日、靜岡の丸尾樣よりお招きあり、北河樣の御指圖にて、湯淺樣と二人にて其地へ參り、有緣の家に十軒程托鉢させて頂きました。恰度、小林、岩崎兩氏も御歸宅なされた當座のこと、共に祈らせて頂けたわけでございます。其の折、小林樣より南莊樣を御紹介願ひ、〇〇寺樣にお訪れいたし、數時間御話承り、また御生活振りを親しく拜見させて貰ひ、色々得る所が多うございました。その時、寺へ歸つた後の私自身の問題が自ら考へられたのでございます。十三日に當地へ戻らせて頂いてから、一日ぢつと筋道立つて考へて見やうと存じて居りました宿念が、今日の日を幸ひ遂げさせて貰ふことが出來ました。南莊樣の御生活から思ひ出されたことで、私の胸の思案に餘ることゞもを、光の前に披瀝して、御教示を願ひたいと思ふのでございます。

先づ私は南莊樣の御生活振を見せて頂きから身を引き緊められる思ひをしました。今時の眞宗の僧侶にして、稀に見る高潔な御生活振とひたすらに頭の下るのを覺えました。南莊樣だけでなく、御家内の皆樣の御精進の御樣子も拜見して、唯々難有いことゝ存じます。此の生活此のまゝが、今の寺院生活にとつて、大きな覺醒でなくてはなりません。然し、更に私の志願を顧みては、稍々消極的ではないかと考へられたのでございます。

もつと、も少し深く突き込めないものか尙、私は思ひます。現在の私の寺で、南莊樣の態度を以て進んだら、殆んど異義なく容れられるだらうと。そして、所謂當り障りをなるべく少くして、而も純に近い道として、この道があるばかりだと。

然し、私は、もう少し突き込みたい思ひを捨てきれない氣がします。たとへば、念佛を稱へて佛間を開扉する前に、便所を掃かせて貰ふことに進みたいのです。勢ひ、私の道は寺の中に躊躇するのぢやなくなつて行くのでせうが、然し、寺を留守居として是非に預る場合になつた私には、さしづめ、葬式のやうなことをどう扱つたらいゝかといふ問題があります。

そんなことからして見ると、僧籍のことなども問題になります。寺に留守居するためには、拘泥しないならば、あつてもいゝ樣に思へます。然し、僧籍にある以上は、本山の支配を受けねばならないことは却つて荷厄介です。國法の前には却つて便利ですけれど。

ずいぶんごた〳〵しましたが、要は南莊さんの立場をもう一度下座に徹底させ、僧籍にゐて拘泥せず、從來の形式の破壞に努めて、落ちつきを失ふ樣な障礙の前には、再び障りない十字路に出づるべき覺悟をもつて、進みたいと思ふのであります。

どうぞ御教示下さいませ、又、先生が若し一燈園の立場として、寺院管理を委託された場合の執らるゝ方法など、御明し下さらば、大なる燈炬たるべしと存じます。（天香師宛）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

下毛野行脚

松下吉衛

大正十二年四月十九日　くもり　のち雨

西那須野、雲照寺の戒光老師からお招ぎを受けて、天香さんは、今朝八時に上野驛をおたちになつた筈。私は、かねて打合せの如く、小山驛にお出迎へ申した。一行は、天香さんの外、勝淳姉平岡姉松本兄酒井兄仁保兄。松本酒井仁保諸兄とは初對面なので、天香さんから御紹介を受けた。松本兄は、臺灣で二十餘年も辯護士をなさつてをり、傍ら信用組合の理事長を務めたり温泉療養所の經營に任ぜられてゐる方。『懺悔の生活』を讀まれて感ずる所あり、爾來、路頭の下座奉仕を親しく實行されてゐるのであるが、此度、前記の信用組合と温泉とを宣光社化する御相談にわざ／＼こちらへお見えになつたさうな。宣光社は、私たちの手許に、他の參考に供し得られるものとてはまだ何一つ具體化されてゐないので、このお志に對してほんとにすまないと思ひました。酒井兄は福岡醫科大學々生、あと一年で御卒業のところを、一燈園生活の實證を通さないでは醫術は生きないと觀念されて十字架を負はれた篤信家。仁保兄は札幌で雜貨商を營まれてゐる方、鹿ヶ谷で豫定の修行を了し今歸國の途次一行に加はられたのである。

宇都宮驛から平野眞澄姉が、また、加はられた。

西那須に着いたのは十二時すぎ、時間に制限されてゐるので不陰德とは知れど自働車にのせていたゞき、直に大田原中學に向ふ。沿道の櫻は實に見事だ。風土が櫻に適してゐると見える。自働車があんまり飛ぶものですから、運轉手臺のわきに無理に割り込んで乘せてもらつてゐる私は時々振り落されさうになるので、速度を運轉手さんにおたづねしたら、

『これで三十哩は超えてゐません。田舍のガタ車ですもの、四十哩以上でるものなど、めつたにありません。ナニ、大丈夫ですよ。』

との答。なるほど快速八十哩では、まかり間違ふと、人の命ぐらゐ何でもなくをへる筈だ。荷馬車に行き會ふ度に、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

子供の戯れてゐるのを前方に見出す毎に、『ナニ、大丈夫です』の速度でも、私はひや〳〵させられた。

大田原中學では、この日、記念祭。そのプログラムの一に天香さんのお話がなつてゐるわけ。蓮實先生の理解ある御斡旋と、數日前から當地に寄せてもらつてゐる同人小澤小暮松村梶浦大上諸兄姉の托鉢とで、さう大したぎごちなさもなく天香さんのお話は受け容れられたやうである。松本兄も所感を生徒さんの前で述べられた。職員の方々との茶話會をしまつて校門を辭した頃には、シト〳〵雨が落ちてきて、まだ暮れる時刻でもないのに、あたりがほの暗く感ぜられた。大田原の市街地へ着くと、小澤兄と小暮兄との御骨折で、同人二三人づゝ托鉢先へそれ〴〵分宿が許された。

今晩また少壯實業家方の御求めで講演會がこゝに開かれる筈になつてゐる。天香さんの宿られたのはその主催者の川上さんといふお宅でした。私は同人二人と共にその御親戚の駿河屋さんといふに御世話になつた。あまりのおもてなしに恐縮してしまふ。講演の旅にお供して、いつも困つたこと、思ひながら、さてどうしやうもない。向ふさんでは可なりよい心でさうして下さるらしいけれど、こちらとしては之を甘受すべきでないこと言ふまでもない。托鉢者の行脚には、それ相當な清規をもうけて置いた方がよいやうに思ふ。清規となつて居れば、こちらでも向ふさんでもお互に氣をもまなくてすみますもの。

講演は或るお寺の本堂で七時から開かれた。天香さんがやゝお疲れ氣味なので、乞はれるまゝに、私が前座を務めた。『一小事實』と題して、智識生活の破綻から天香さんにお會ひして一燈園生活に觸れるに至つた經路をありのまゝに述べさせてもらつた。これが私には一番無難に思へたから。天香さんの演題は『眞商は菩薩行』。町の實業家系の方が聽衆の大部をしめてゐたので、宣光社について縷々お說きになつた。聽衆はこの町として稀な出であること主催者にも喜ばれてゐた。散會十時すぎ。

四月二十日　はれたれど風つよし

朝、早めに起きて托鉢のまねごとをさせてもらつた。この頃、とかく、高あがりになりがちな自分は、路頭をしのぶ意をこめて、特に下のはゞかりを淨めた。お家の方に見つからぬうちにすませたので、ぎごちない思ひもせず、大へんよかつた。氣だてのよい若い番頭さんが入り代り來ら

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

れては、いろ〳〵もてなしてくれ、ご飯のお給仕までして下さりながら、何かご一燈園生活について無邪氣な質問をなさる。

『數日前からこちらへ來ていたゞいてゐた小澤さんにも一晩お宿して色々うかゞつたのですが、たゞ謙遜にお辭儀をなさつて、あまりお答がないので弱りました。』

これは年かさの番頭さんの言葉でした。今日の日程について、同人方ご打合せの都合があるから、私も番頭さんを『弱らせ』ぱなしで、同宿のものご共に、天香さんのお宿にうかゞつた。天香さんは御揮毫の最中でした。

今日は一行を三分して西那須野の雲照寺にまゐるもの、鹽原の妙雲寺にいかしてもらふもの、天香さんご一所のものこにした。

私は最後の組に入れられ、午前十時から開かれる筈の大田原高等女學校の講演會に急いだ。生徒以外の婦人も聽衆席に散見された。平野さんの御母堂は當地の高田耘平さんの御嗣子に嫁がれた雪江さんをおつれになつて見えてゐた天香さんのお話は、二時間に亘り、生徒さんによくわかるやう園生活の有樣を細かに述べられた。

講演後、一家の問題で天香さんに會見をお求めになつた方も二三あつた。

ひるげの御供養をうけてから、校長さんの御案内で、星野なにがし樣の茶室に招ぜられた。やはり托鉢先のお家である。十三世利休の書かれた『無風流ノ處、返ツテ風流アリ』こいつた意味の軸がかゝつてあつたやうに記憶してゐる。お茶も、さゆも、水も、さしてちがつた味のしない味盲の私は、もこより、抹茶ののみやうさへ心得てをらず恐縮して教を乞ふた。

午後、川西町行。蓮實さんも同行された。同町の文化同志會主催の講演會にのぞむためだ。大田原を立つこき、舊友玉木三子兄に大變お世話になつた。川西へつくこ同志會長植竹喜四郎さんが出迎へてゐて下さり、直ちに會場に御案内を受けた。天香さんが今日も可なり御疲勞なさつてをり、夜分もう一回の御講演を控へていらつしやるので、私にゆつくり話をせよこのこご『愛ご自由この王國へ』ご題して一時間あまり述べさせてもらつた。公けの席上で一燈園生活の話をやゝまごまつてしたのは今日が初めてゞある言ひまちがひなかつたらうかご氣づかはれる。おつかれに拘らず、天香さんは强ひて壇上に立たれた。初め、しばらく大儀さうにお見受けしたが、ごうした御氣分の轉換であ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

つたのか、稀にきくよいお話をなされた。散會後、夜の會場にあてられてゐる常念寺へ行く途中、天香さんから一歩おくれてあるいてゐた蓮實さんと私との間に次のやうな言葉が交換された。

『今日のお話をうかゞつて初めて天香さんの眞面目に接したやうな氣がいたしました。』

『大田原中學の時には、聽衆の方が雜多なためでしたらうか、お話がずゐぶんしにくさうでしたね。あんなこともめつたにありませんが、今日のやうに……岩かぢをぶつかいて泉が迸り出るといつたやうな、あんなお話のしやうをなさることも、さうたんとはありませんです。』

『私も「懺悔の生活」は讀ませていたゞきましたが、本で讀んだのと、直接お話をうかゞふのとは、同じわけにいきませんね。』

『あの本を出させてもらふとき、中桐先生やなにかと原稿を讀みあつたのですが、どうも天香さんの風格があまり出てゐないので、どうしたものだらうと、ずゐぶん、氣をもんだものです。でも、一燈園には生活があるんだから、といふので、兎に角、本屋さんにおまはしすることにしたのでした。』

常念寺でのお話が終らうとする頃、私は突然ある人から天香さんへの哀訴をきかされた。訴の筋といふのは、この町の相當な資産家の娘さんで、先年ある勤め人の方に嫁ぎ、子まで出來たのに肺を患つた爲めに實家へかへされてゐる方があるのであるが、この頃は死の恐怖に襲はれて大へん惱まされ、是非一目天香さんにあはせてもらひたいと願つてをりますから、おつかれのところ、申上げにくいけれど今晩いらしつてはくれまいかとのことであつた。

講演のをへたのは十時半頃であつたらうか。へと〳〵になつて方丈の片隅で番茶をすゝられてゐる天香さんの沈み切つたお顏色に接しては、私として今晩もう何もお願ひしたくないのでしたが、人一人の運命が右、左になるクリテイカルな場合であり、蓮實さんのお言葉ぞへもあつたのでとにかく、お傳へだけはすることにした。

天香さんは、言下に、それではゆかしてもらうといはれる。私もお供を申出でた。秋田からのもどり路を一行に加はられた保太郎さんと、仁保さんは、お寺にとめていたゞくことにし、天香さんと私とは、蓮實さんと、もひとりの方（後で娘さんの兄さんなことがわかつた。）につれられて一軒として店を開けてゐる家もない電燈のまばらな川西の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

町の夜更をトボ〳〵歩いて行つた。那須野の小邑ででも春の夜は、やはり、春の夜だ。いづこともなく花の香が浮動してゐるらしく感ぜられた。ふと、門附の三味のけたゝましい音がツイ近くにおこつたので、私等は思はず佇まされた。どこかみやびた風のあるまだうら若い女のおしろいの顔よ。調子もかまはずにヤケにひきならしてゐる姿は、私の見てはならないものであるだらう。春を樂しめぬ不都合もの、私の心は、かきむしられるやうに覺えて、こゝには托鉢の氣持に復活できさうになかつた。

娘さんの實家といふのについた時は、十一時をまはつてゐた。娘さんは既にねむられてゐたのを、わざ〳〵起きいで、天香さんにお會ひなさつた。病氣は想像してゐたより重くはないらしく見えた。たゞ非常に神經が苛立つてゐて、內氣な彼の女の性格がこれを取扱難んじてゐるのではあるまいかと思はれた。天香さんは三十分餘話されてから私に靜坐法を娘さんに敎へる樣にと言はれたので、僭越ながら、岡田先生に授かつた通りを說明し、かういふ御病氣の方によくある例で、體の重心が胸部にあるのを、丹田に引き下げるやう、前方に張つたみづおちを屈して、胸や肩のやすまるやうな姿勢に直してあげた。午前一時就床。

二十一日　くもり

早起。天香さんは娘さんと共に靜坐稱佛。私は雜巾をにぎる。朝飯の御供養を受けながら、天香さんはこゝの御主人に語られた。

『娘さんは、靜坐稱佛中、病苦も何もかも忘れたといふその氣持に生きゝれば、生死を超えなさることも出來やうかと思ふ。病氣は病人さんだけの責任ではないかも知れぬ。一家皆さんのお厄とも見られる。どうぞ皆さんして靜坐中に味はれた氣分に娘さんが始終なつてゐられるやう守(もり)してあげて下さい。娘さんも病氣を悲觀してはならない。そのために又とないよい修行をさせてもらへて無事な時よりかも反つて惠まれることにならないものでもない。私なども病むことがないではないがぢいつと坐ること自然に癒やされるやうである。娘さんのことは、蓮實さんや常念寺の和尙さんにようくお賴みして置きますから、體に無理でなかつたら、時折、お寺にまゐらせてお念佛をさせてあげて下さい。イヤなのをおしてするのでは勿論よろしくないが、お家の佛壇を淨めるとか、下駄を揃へるとか、その邊を掃くとか、輕微なはたらきをするのは、自分の心のほこりを拭ふことになるのである

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

から、娘さんも、たゞ體だけぢつとしてゐることを安靜療法だと誤つてはなりません。』

早い汽車で鹽原の妙雲寺に向ふ。川西驛で、那須與市の城趾があるといふ程近い山を敎へられる。昨日雲照寺におまゐりになつた同人方と折よく西那須野驛で一所になる。鹽原へはこゝから電車に乘換へるのだ。電車は、松方さんの牧場とか何々さんの農場とかの間をひた走つて、やがて山間を幾うねりし、新鹽原驛に私等を運んだ。

紅葉山人の筆に有名な天下の絕勝に今から接し得るのかと思ふと勿體なすぎて何ものかにあやまりたいやうな氣がした。路は自働車が樂にすりかへられる程の幅をもつてゐる私等は贅澤だけれど步いた。沿道の眺めをほしいまゝにしようといふのだ。蓮實さんの敎へ子で鹽原湯元なすやの御子息である渡邊さんが、大田原以來、私等のつれになつてゐて、今日も御案内の勞をおとり下さるので、なんぼうありがたいか知れぬ。新鹽原から妙雲寺のある下鹽原まで一里半强。箒川の碧流を下瞰し、對岸に峙つ高峯を彩る野州躑躅をめでゝ、道友と語らひつゝ春の山路を踏めば、詩をしらぬ私も詩心にはならずにゐられない。自然と一つに融け合つた氣持。入我々入の境。こゝだ、これでいゝんだなと思へた。されど自然を征服する人間の威力の强さよ！御歌所のお役人高崎なにがしさんの別莊とやらはそこにいかめしく立てられてあるではないか。聖上御來臨の折、よく御散策あそばされるとき、植竹なにがしさんの私有地は幾年か前、幾千圓かで拂下げたものだが時價に見積れば幾十萬圓かになつてゐるといふではないか。こゝには、また、國法學の大家で袁世凱の顧問までおつとめになつた博士有賀長雄といふ人や、有名な琵琶師で文展に通つたほどの繪もおかきになる永田錦心といふ人の別莊まであるさうである。もとより日本の法律には、誰々は別莊もつべからずといふ禁制はないのでせうから、もつ力のある人が隨所に別莊を營むこと固より合法的行爲であらねばなりません。たゞ私は文明と稱する人間の威力に痛嘆し、默々として言はざる自然の姿に眺め入つて實にハラ／＼させられた實感を語れば足りるのである。

正午ちかくに妙雲寺につき、方丈さんに御挨拶申上げたうかゞへばこゝは平重盛の妹(?)妙雲禪尼の開基にかゝるとか。平家の紋章のわざとおほはれてあるのなどが目につく。昨日西那須野につかれ眞直こちらに來られた中桐先生は、かくれた溫浴史の研究家である。お着き早々風呂の御

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

視察をそちこちなされ、今日も朝からお出掛けになつたこ方丈さんがおしやつてゞした。お湯のむちやに好きな私はこゝにつくこもう我慢がならなく、天香さんのお供をして新築したばかりの渡邊さんのお家(なすや)に御案内をうけ風呂にいれていたゞいた。私の悦び方が少し度を超えてゐたのだらう、渡邊さんは『一週間分もはいりためていらつしやい。』などゝ笑はれた。渡邊さんのこころから妙雲寺へのもごりに、勝淳さんはじめ五六の婦人の方々が托鉢されてゐるお宿に天香さんこ共に一寸御挨拶にあがつた。

午すぎ、妙雲寺境内で天香さん中桐先生方丈さんはじめ一行のもの皆加つて保太郎さんに記念の撮影をしていたゞいた。方丈さんの御好意から一同に二三時間のタイムが許されたので、渡邊さんにつれられ皆してそちこち見物しまはつた。木の葉や魚介の化石がでるこころへも行つて見た

こゝでは、櫻はまだ一二分の綻び、梅が今まつさかりだ陽が傾いた頃には綿入を着けてゐるのにうすら寒く感じた千人風呂こいふ誰にでも公開されてある民衆浴場にいつてもう一度ゆあみした。少し淺いけれご游ぐには足りる。期節が期節なので一人の浴客も見えてをらず、天香さん中桐先生その外五六の同人だけで心ゆくばかり澡浴した。游ぎながらであらう、誰かゞ『八解之浴地ニハ、定水湛然トシテ滿テリ、佈クニ以テシ七淨華ヲ、浴スルハ此無垢人ナリ』こ誦してゐるのが聞える。『無垢ノ人』だかごうだかは先づ問はないこして、このやうな浴地が、地上の日本に存在してゐるここは、確かに感恩に値するこ思ふ。

『先生これをこのまゝ東京の猿江裏町や日暮里にもつていけませんでせうか?』こ、游ぎつかれた私が話しかけたら、水の中の泳ぎはおできにならない天香さんこ相並んで浴してゐられた中桐先生は、

『ごうです、僕の主張はほんこうでせう。風呂へ入れば萬事が解決する。』こ滿面にほゝえみを湛へて言はれる。寫眞ずきの保太郎さんは、こゝでも私等をオツトセイ扱にしてフィルムに納められた。

浴後、一行は方丈さんの御厚情でそれ〴〵托鉢先を惠まれた。私は宮田屋さんこいふ旅館に行かせていたゞいた。ほんの型ばかりの拭き掃除しかさせられなかつた。宮田屋さんの御主人は機鋒の鋭い方こ見えて、臺所で夕餐の御供養にあづかつてゐるこ、突然

『あなた方の托鉢こいふのは宣傳のためなのか、修行のためなのか?』こ、私には可なりこたへる痛棒をお下しに

なつた。自分だけには、ずゐぶん、つゝしみ心を相續しながら御用をさせてもらつてゐたつもりであるが、どこか宣傳らしい氣配でも無意識の間に出てゐたのではあるまいかさうだとすれば大へんなことだ。私は辭をひくうして『罪をわびる者の所行です。』と申上げて多くを言はなかつた。

夜、七時から、お寺で講演會。中桐先生の溫浴の話に續いて天香さんは一燈園生活について述べられた。ずゐぶんな聽衆であつた。

二十二日　小雨後はれ

一同、鹽原を立つて西那須野の雲照寺に向ふ。中桐先生だけは先發して東京へお歸りになる。私は明日宇都宮でしていたゞく講演の準備があるので、雲照寺へは寄せてもらはず、烏ヶ森で一行とお別れした。宇都宮へつくとすぐ宇都宮高等女學校長淸水義雄先生を御訪ねして種々打合せを了した。

（つゞく）

。　。　。　。

燈影雜記

表紙題字は劇の『あんちん、きよひめ』で有名な紀伊國道成寺の鐘の銘で、正平十四年己亥三月十一日逆算五百六十四年のものです。此鐘は京都妙滿寺の本堂の横に塵に埋もれて轉がつて居る筈です。本年四月廿日頃の東京朝日新聞雜報欄に、道成寺の名物の鐘が久しく失はれて土地の面目名所の名折れでもあると云ふので有志者が金を出して新規に鐘を鑄造寄進するとかいふ話が見えたやうでしたが、そんな馬鹿な事をよして妙滿寺へ交渉して舊蹟へ戻して貰ふ方が向うでも厄介物が片附いて喜ぶわけと思はれます。（混沌）◆三石勝五郎さんから編者宛のはがき『――いろ〳〵と御心配をかけました處女詩集「散華樂」が新潮社から出ましたので一部お贈りして置きました。――かつて「光」誌上にて「稱佛」と紹介されましたが天香さんが「散華樂」と命名されたまゝをお受け致しました。一燈園詩集としてはまことに恥かしいが、これも本屋がしたまゝにお任せします。云々』◆四月の玄光社例會にはS・Tさんが二人のつれの方と一緒にお見えになつて種々御運動の模樣や私等のいのりに對する御意見やを腹藏なく述べて下さつた。昨年の五月創立以來ある意味で最も充實した會合だつたとも見られやう。すべての事情を綜合して考へるのに玄光社も今大事な轉機に立たされてゐるのではあるまいか。藤井兄も六月にはあつちから歸朝される筈。もう〇〇〇〇〇早すぎはすまい。學究と文化から何がうまれるか。先達滋賀縣八幡町にヴォーリス氏の事業を見學にいつた時、氏の片腕となつて働かれてゐる吉田悅藏氏からバクーニンのある著書中にあるとて『プロパギヤンダ バイ ゼデイーヅ』といふ言葉を敎へられた。デイーヅ・デイーツーさうだ、デイーヅでなくちやダメだ。◆それをすればいつでも死れること、さういふことにいつでもかゝはつてをりたい。◆八田兄から最近の便りに『總てを燒きつくすやうな熱が欲しくなつて居ります。この儘の世は餘り寂しい。』全くだ、たましひはすゝりなく。光の友よ、手を握れ！（松下生）

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

玄光社パンフレット

第一册　現代の經濟生活と懺悔奉仕の道　松下吉衛著　代價二十錢

第二册　農民運動の新傾向　小林鐵太郎著　代價二十錢

第三册　クリスト教社會主義史　松下吉衛著　近刊

東京市外上戸塚五八〇

發賣所　玄光社

振替東京五四一七八

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

西田天香氏序
吉江喬松氏跋
三石勝五郎氏著

散華樂（さんげらく）

特製美本▼壹圓六拾錢
二百八十頁▼郵送料拾錢

一燈園詩集

漂泊と勞働の詩人の最も異色ある詩集出づ。

自然の詩人、勞働の詩人、漂泊の詩人、三石勝五郎氏の新詩集『散華樂』が出た、作者は早稻田を出でて十年、風塵の巷に轉々して具さに辛酸を嘗めつゝ、毫もその性格に惠まれたる野生の美を失はず、常に怡然として樂み、樂しんで歌ふ、最近一燈園に入りて褐衣繩帶の使徒となり、或は秋田の鑛山に槌を揮ひ、或は樺太の曠原に馬を牧ひ、東漂西泊の間、勞働を以て大自然に參し、大自然の生命を即興の詩に捉ふ、その敬虔の生活態度は、眞に以て現代社會に對する痛切の批評たる可く、その直觀雋銳の詩は、詩壇曾て見ざる獨自の風格を具へてゐる。吉江孤雁氏、讃して曰く、「曾て英國にアンダア・マンの理論を說いた思想家があつたが、この『散華樂』の詩人はまさにこのアンダア・マンの權化である。』と。我等世に告げて「此の詩を見よ」と云ふ前に先づ、聲を大にして「此の人を見よ」と叫び度く思ふ。

東京牛込矢來三番地
振替東京一七四二番
新潮社
電話八〇六・八〇八
牛込八〇七・八〇九

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN